

和歌山県知事 宮崎 泉 殿

〔設置者の名称〕 学校法人三木学園

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 三木 繁清

大学等における修学の支援に関する法律第3条第1項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	和歌山コンピュータビジネス専門学校
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学・高等専門学校・ <u>専門学校</u>)
大学等の所在地	和歌山市黒田 41-1
学長又は校長の氏名	三木 繁清
設置者の名称	学校法人三木学園
設置者の主たる事務所の所在地	和歌山市黒田 41-1
設置者の代表者の氏名	三木 繁清
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.myros.ac.jp/

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第5条第1項に基づき確認申請書を提出します。

 更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第5条第3項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

 この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第3条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	校長 三木繁清	073-474-0200	office@myros.ac.jp
第2号の1	副校長 日高亜季	073-474-0200	office@myros.ac.jp
第2号の2	副校長 日高亜季	073-474-0200	office@myros.ac.jp
第2号の3	副校長 日高亜季	073-474-0200	office@myros.ac.jp
第2号の4	副校長 日高亜季	073-474-0200	office@myros.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 () を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(3)②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(4)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	学校法人三木学園 理事長 三木繁清

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	IT科(4年制) ICTプロフェッショナルコース	夜・通信	1830時間(4年間)	320時間	
	IT科システムエンジニアコース	夜・通信	765時間(2年間)	160時間	
	IT科ITエキスパートコース	夜・通信	675時間(2年間)	160時間	
	IT科コンピュータグラフィックスコース	夜・通信	420時間(2年間)	160時間	
	IT科国際ITビジネスコース	夜・通信	690時間(2年間)	160時間	
	IT基礎科ITビジネスコース	夜・通信	240時間(1年間)	80時間	
商業実務専門課程	ビジネス科公務員専攻コース	夜・通信			※
	ビジネス科公務員マスターコース	夜・通信			※
	ビジネス科国際ビジネスマネジメントコース	夜・通信	690時間(2年間)	160時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.myros.ac.jp/about/info/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

ビジネス科は公務員を目指す学科としてカリキュラムが設定されているが、現役の公務員が副業で教鞭をとることが難しい為、要件を満たすことは困難である。またビジネス科国際ビジネスマネジメントコースは留学生を対象としたコースであるため、要件に該当しない。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	学校法人三木学園 理事長 三木繁清

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページにて公開している。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
小林 一裕	ファイナンシャルプランナー	3年	会計事務所職員・ファイナンシャルプランナーとして、学校法人の財務諸表の作成、監査、税務申告を担当します。正確な会計記録の維持は、財務健全性の確保と、利害関係者への信頼性の高い情報提供に不可欠であり、理事として適任です。
阪 正比吉	IT 企業役員	3年	IT 企業の管理職として、先端の技術革新をリードし、プロジェクト管理、チームビルディング、そして戦略的意思決定を通じて会社の成長を促進した実績があります。教育分野における IT ソリューションの開発にも注力し、学校法人の運営効率化に貢献しており、理事として適任です。
喜田 至	本学元副校長	3年	元本学の管理職として学校立ち上げから携わった経験を活かし、学校法人の運営

			における教育プログラムの質の向上、施設管理、そして財務戦略の策定に深い洞察を提供します。この経験は、学校法人が直面する様々な課題に対応するための貴重な資源であり、理事として適任です。
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	学校法人三木学園 理事長 三木繁清

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	学校評価委員会
役割	学校評価委員会は、推薦学科の専攻分野に関する企業等の役職員から広く選任し、①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体の役職員②学会や学術機関等の有識者③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員を選別し、委員より学校評価というところを行うことで教職員間、また保護者や地域住民等がお互いに理解を深めることを目的としている。学校教育目標に向かうべくトルを合わせることで、双方の協力を得る。

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
株式会社スマート・インサイト 代表取締役	2025/3/1 ～ 2026/2/28	本校の卒業生が起業した海南市に立地するシステム開発会社であり、現状主力となっている和歌山でのプログラミングについての知見があり、シラバス作成についてアドバイスを頂いた。
(株)和歌山印刷所 出力部部长	2025/3/1 ～ 2026/2/28	本校の非常勤職員として、印刷会社のPhotoshop、illustratorなどの操作などを教えることで企業より協力いただき、授業の一端を担っていた。
和歌山情報サービス産業協会 産学交流推進部会 部会長	2025/3/1 ～ 2026/2/28	和歌山情報サービス産業協会産学交流推進部会長として、本校と和歌山のIT企業の関連強化に尽力いただいた。
和歌山大学システム工学部 教授	2025/3/1 ～ 2026/2/28	先端のネットワーク技術の准教授で、本校の教育課程編成委員会の委員としてご意見を頂いた。
和歌山大学システム工学部 教授	2025/3/1 ～ 2026/2/28	先端のソフトウェア工学、ソフトウェア開発環境の開発を行う准教授で、本校の教育課程編成委員会の委員としてご意見を頂いた。
(株)ジーアイソフト 代表取締役	2025/3/1 ～ 2026/2/28	販売・生産・配送・給与など、汎用的に使われるソフトを自社で開発されており、本校の教育に実践的な考え方を取り入れる等、本校の教育課程編成委員会の委員としてご意見を頂いた。
(株)システムキューブ 代表取締役	2025/3/1 ～ 2026/2/28	システムやソフトウェアの開発、運用、保守などを通じ、業務効率化をサポートするシステム開発会社として、本校の教育課程編

		委員会の委員と参加頂いている。
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	学校法人三木学園 理事長 三木繁清

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 職業実践専門課程認定を得るに際して、学校評価委員を決定するなど、授業計画に外部専門家の意見を取り入れ、委員会を開催する機会を授業に活かしている。またシラバスは以前から担当教員が記載し、学科長が取りまとめるなど、組織的な授業計画を行っており、ホームページ上でこれを公表している。	
授業計画書の公表方法	HPにて、シラバスを全教科公開している。 https://www.myros.ac.jp/about/info/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学習成績の評価は、下記の項目により総合的に判断して行う。ただし、科目により重点評価項目が異なる場合がある。</p> <p>(1) 評価項目 授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢。</p> <p>(2) 評価方法 評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。</p> <p>(3) 評価基準 下記の評定のうち、「A・B・C」の評価により科目の修得(合格)を認定する。下記得点は評価の目安とする。</p> <p>A:科目の総合的評価が優秀である。100点満点換算で100点～80点</p> <p>B:科目の総合的評価が優良である。100点満点換算で79点～60点</p> <p>C:科目の総合的評価が良好である。100点満点換算で59点～40点</p> <p>D:科目の総合的評価が認定基準に満たない。100点満点換算で39点以下</p> <p>※D評定は科目未修得(不合格)となる。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>算定基準は、上記及びシラバス規定に従い算出された点数を、下記計算式に当てはめて計算しGPAに準ずる客観的な指標を設定している。</p> <p>(優秀の単位数×3) + (優良の単位数×2) + (良好の単位数×1) ÷ 合計の単位数</p> <p>例 科目①が95点の「優秀」で2単位 科目②が65点の「優良」で4単位 科目③が55点の「良好」で2単位 → (2×3) + (4×2) + (2×1) ÷ 8 = 2 算定成績 = 2</p> <p>※100点満点中39点以下の場合、単位を取得できないので上記計算式には含まない。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>H P https://www.myros.ac.jp/about/info/にて「学習の手引」を公開し、上記の成績評価方法を開示している。</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業審査は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。

在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。

- (1) 1年制学科 修得(合格)科目の時間数合計が31単位、且つ850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。
- (2) 2年制学科 修得(合格)科目の時間数合計が2年間で62単位、且つ1700時間以上である。
※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。
- (3) 4年生学科 修得(合格)科目の時間数合計が4年間で124単位、且つ3400時間以上である。

※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

H P <https://www.myros.ac.jp/about/info/>にて「学習の手引」を公開し、上記の進級・卒業・留年等の基準について情報を開示している。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	学校法人三木学園 三木 繁清

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	HPに掲載。 https://www.myros.ac.jp/about/info/
収支計算書又は損益計算書	HPに掲載。 https://www.myros.ac.jp/about/info/
財産目録	HPに掲載。 https://www.myros.ac.jp/about/info/
事業報告書	HPに掲載。 https://www.myros.ac.jp/about/info/
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT科（4年制）ICT プロフェッショナル コース		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
4年		3400 単位時間/単位	1935 単位 時間/単位	1680 単位 時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			3615 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		35人	0人	4人	2人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材を育成する。</p> <p>具体的には、J A V A、C #、P y t h o nといったプログラミング言語を取得し、国家資格受験を励行する。</p> <p>3年目からは企業連携を始め、応用情報技術者試験、さらに高度情報処理技術者試験の取得を目指す。また今後の時代ニーズに沿って、セキュリティコンテスト（CTF）に出場する等、インターネットやネットワークトラブルに対応できるスペシャリストを育成する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当が他</p>

学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)
 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。

1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。(1) 進級 修得(合格)科目の時間数合計が800時間以上である。
2. 仮進級 修得(合格)科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。
3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。
4. (1年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が31単位、且つ850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。
5. (2年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が2年間で62単位、且つ1700時間以上である。
 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかななければならない。
 ※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。
6. (4年生学科) 修得(合格)科目の時間数合計が4年間で124単位、且つ3400時間以上である。
 ※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。

学修支援等

(概要)
 進路に合わせたゼミ制度をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)

(主な就職、業界等)
 IT業界(運用・開発)部門への就職、また県内就職ではITに関わる仕事一般が該当するが新設コースなので実績なし。

(就職指導内容)
 進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。

(主な学修成果(資格・検定等)) 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、ITパスポート試験。高度情報処理技術者試験。
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
令和6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT科(システムエンジニアコース)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700 単位時間/単位	845 単位時間/単位	900 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1745 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140人		55人	0人	4人	2人	6人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材を育成する。 具体的には、J A V A、C #、P y t h o nといったプログラミング言語を取得し、国家資格受験を励行する。
成績評価の基準・方法
(概要) 評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行

う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。</p> <p>4. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。(1) 進級 修得（合格）科目の時間数合計が800時間以上である。</p> <p>5. 仮進級 修得（合格）科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。</p> <p>6. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。</p> <p>4. (1年制学科) 修得（合格）科目の時間数合計が31単位、且つ850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。</p> <p>5. (2年制学科) 修得（合格）科目の時間数合計が2年間で62単位、且つ1700時間以上である。 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。 ※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。</p> <p>6. (4年生学科) 修得（合格）科目の時間数合計が4年間で124単位、且つ3400時間以上である。 ※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
35人 (100%)	0人 (%)	33人 (94%)	2人 (6%)
(主な就職、業界等)			
IT 業界（運用・開発）部門への就職、また県内就職では IT に関わる仕事一般が該当する。			
(就職指導内容)			
進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。			

(主な学修成果(資格・検定等)) 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、セキュリティマネジメント試験、ITパスポート試験
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状 (IT科システムエンジニアコース)		
令和6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
55人	1人	1.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更による退学。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT科 (ITエキスパートコース)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700 単位時間/単位	1020 単位時間/単位	840 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
	1745 単位時間						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140人		55人	0人	4人	2人	6人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材の育成を育成する。 具体的にはCAD操作やWEBプログラミング知識を身につけ、ITのソフトウェア操作に慣れる等、2年間で実践的な内容を学習する。
成績評価の基準・方法
(概要) 評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得(合格)を認定する。
卒業・進級の認定基準

<p>(概要)</p> <p>進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。</p> <p>1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 (1) 進級 修得(合格)科目の時間数合計が800時間以上である。 2. 仮進級 修得(合格)科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。</p> <p>3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。</p> <p>4. (1年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が31単位、且つ850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。</p> <p>5. (2年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が2年間で62単位、且つ1700時間以上である。 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかななければならない。 ※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。</p> <p>6. (4年生学科) 修得(合格)科目の時間数合計が4年間で124単位、且つ3400時間以上である。 ※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。</p>
--

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
39人 (100%)	0人 (0%)	29人 (74%)	10人 (26%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>IT 業界（運用・開発）部門への就職、また県内就職では IT に関わる仕事一般が該当する。</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>IT パスポート試験、CAD 利用技術者試験</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p> <p>この卒業年度の学生は新型コロナウイルスの関係で、留学生の就職状況が悪く、自国へ帰る者が多かった。</p>			

中途退学の現状 (IT 科 IT エキスパートコース)		
令和 6 年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
63 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT 科 (コンピュータグラフィックスコース)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1700 単位時間/単位	645 単位時間/位	1110 単位時間/単位	0 時間	0 時間	0 時間
	1755 単位時間						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140 人		16 人	0 人	2 人	1 人	3 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材を育成する。 具体的には Photoshop や Illustrator、また 3D ソフト等の操作を学習し、デザインに必要な知識を身につける。
成績評価の基準・方法
(概要) 評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得(合格)を認定する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。

1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。
(1) 進級 修得(合格)科目の時間数合計が800時間以上である。
2. 仮進級 修得(合格)科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。
3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。
4. (1年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が31単位、且つ850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。
5. (2年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が2年間で62単位、且つ1700時間以上である。
※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかななければならない。
※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。
6. (4年生学科) 修得(合格)科目の時間数合計が4年間で124単位、且つ3400時間以上である。
※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。

学修支援等

(概要)
クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	0人 (0%)	12人 (80%)	3人 (20%)

(主な就職、業界等)
デザイン・ゲーム業界への就職、また県内就職では印刷会社やパッケージ会社、ホームページ制作会社等、デザインに関わる仕事一般が該当する。

(就職指導内容)
進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。

(主な学修成果(資格・検定等))
Photoshopクリエイター能力認定試験、Illustratorクリエイター能力認定試験、色彩検定。その他デザインコンクールへのチャレンジを随時行っている。

(備考)(任意記載事項)
この卒業年度の学生は新型コロナウイルスの関係で、鬱になる学生が2名、進学する学生が2名出た。

中途退学の現状 (IT科コンピュータグラフィックスコース)		
令和6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率

25人	1人	4.0%
(中途退学の主な理由) 心理的な病気で退学となった。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT科(国際ITビジネスコース)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700 単位時間/単位	617 単位時間/単位	1110 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1727 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70人		76人	76人	10人	3人	13人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材を育成する。 具体的には留学生の就職に必要なスキル、CAD、WEB ページ作成等 WEB デザインに必要な知識を身につける。
成績評価の基準・方法
(概要) 評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得(合格)を認定する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。 1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 (1) 進級 修得(合格)科目の時間数合計が800時間以上である。 2. 仮進級 修得(合格)科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未

<p>満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。</p> <p>3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。</p> <p>4. (1年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が31単位、且つ850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。</p> <p>5. (2年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が2年間で62単位、且つ1700時間以上である。 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。 ※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。</p> <p>6. (4年生学科) 修得(合格)科目の時間数合計が4年間で124単位、且つ3400時間以上である。 ※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
28人 (100%)	0人 (%)	28人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) ITを使った就職先の中でCAD系、WEB系の就職が多くを占めた。			
(就職指導内容) 進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 日本語検定N1、N2の取得を目指しながら、実践的なCADやWEB操作を学習する。ITパスポート試験、MOSの試験を取得する。			
(備考)(任意記載事項) 日本語学校を卒業していても日本語力が拙い学生のために、日本語能力向上を目的に授業を週に1日行っている。			

中途退学の現状 (IT科国際ITビジネスコース)		
令和6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
76人	6人	7.8%

(中途退学の主な理由) コロナによりアルバイトができなくなったため、経費の関係で進級、卒業を諦めた。9名が出席不良で留年になった。
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT基礎科 (ITビジネスコース)	×			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	850 単位時間/単位	525 単位時間/単位	360 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			885 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5人		1人	0人	1人	0人	1人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材の育成を育成する。 具体的にはCAD操作やWEBプログラミング知識を身につけ、ITのソフトウェア操作に慣れる等、2年間で実践的な内容を学習する。
成績評価の基準・方法
(概要) 評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得(合格)を認定する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。 1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 (1) 進級 修得(合格)科目の時間数合計が800時間以上である。 2. 仮進級 修得(合格)科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。

<p>3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。</p> <p>4. (1年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が31単位、且つ850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (%)	0人 (0%)	人 (%)	0人 (0%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>IT 業界 (運用・開発) 部門への就職、また県内就職では IT に関わる仕事一般が該当する。</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。現状進路指導部で就職先の新規開発を行う他、和歌山県労働政策課や JETRO と連携し、県内への就職あっせんに努めており、労働政策課は月に2回、JETRO は年に2回企業セミナーの開催を行って来ている。</p>			
<p>(主な学修成果 (資格・検定等))</p> <p>IT パスポート試験、CAD 利用技術者試験</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			

中途退学の現状 (IT 科 IT ビジネスコース)		
R6 年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
<p>(中途退学の主な理由)</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		商業実務専門課程	ビジネス科（公務員マスターコース）	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700 単位時間／単位	1395 単位時間/単位	408 単位時間/単位	0 時間	0 時間	0 時間
			1803 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
12 人		15 人	0 人	4 人	0 人	4 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>公共サービスの提供、国民の生命や財産を守る使命感と実践的能力を持ち、住民との円滑な交流を行える公務員の育成を目指す。知識習得においては過去問題の分析に用いた模擬試験を効率的に行い、密度の高い授業を行い短期間での公務員試験の合格を目指す。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <p>評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 <ol style="list-style-type: none"> （1）進級 修得（合格）科目の時間数合計が800時間以上である。 2. 仮進級 修得（合格）科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。 3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 4. （1年制学科） 修得（合格）科目の時間数合計が31単位、且つ850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。 5. （2年制学科） 修得（合格）科目の時間数合計が2年間で62単位、且つ1700時間以上である。 <p>※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。</p> <p>※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。</p> 	
学修支援等	

<p>(概要)</p> <p>担任制をとり、担当教員が学生の学修上の助言や指導を行います。各試験情報を定期的に発表し、目指す試験についてのアドバイス等も受けることができません。また公務員試験合格に向けた出願書類作成のサポート、面接指導等も随時実施しています。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	4人 (80%)	1人 (20%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>都道府県庁行政職員、市町村行政職員、警察署、消防署、国家一般職、税務職員等、各種公務員。</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>公務員試験合格に向けた教養試験対策、及び出願書類作成のサポート、面接指導等も随時実施。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>各種公務員試験最終合格。</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
R6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	商業実務専門課程	ビジネス科（公務員専攻コース）	×				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	850 単位時間/単位	750 単位時間/単位	228 単位時間/単位	0時間	0時間	0時間
			978 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		

50人	17人	0人	4人	0人	4人
-----	-----	----	----	----	----

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 <ol style="list-style-type: none"> （1）進級 修得（合格）科目の時間数合計が800時間以上である。 2. 仮進級 修得（合格）科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。 3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 4. （1年制学科） 修得（合格）科目の時間数合計が31単位、且つ850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 <ol style="list-style-type: none"> （1）進級 修得（合格）科目の時間数合計が800時間以上である。 2. 仮進級 修得（合格）科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。 3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 4. （1年制学科） 修得（合格）科目の時間数合計が31単位、且つ850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。 5. （2年制学科） 修得（合格）科目の時間数合計が2年間で62単位、且つ1700時間以上である。 <p>※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。</p> <p>※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。</p> 6. （4年生学科） 修得（合格）科目の時間数合計が4年間で124単位、且つ3

<p>400時間以上である。 ※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。</p>
学修支援等
<p>(概要) 担任制をとり、担当教員が学生の学修上の助言や指導を行います。各試験情報を定期的に発表し、目指す試験についてのアドバイス等も受けることができます。また公務員試験合格に向けた出願書類作成のサポート、面接指導も随時実施しています。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
21人 (100%)	0人 (0%)	21人 (100%)	0人 (0%)
<p>(主な就職、業界等) 都道府県庁行政職員、市町村行政職員、警察署、消防署、国家一般職、税務職員等各種公務員、民間企業等。</p>			
<p>(就職指導内容) 公務員試験合格に向けた教養試験対策、及び出願書類作成のサポート、面接指導等を随時実施。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）) 各種公務員試験最終合格。</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
R6 年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24人	1人	4.1%
<p>(中途退学の主な理由) 公務員合格による中途採用で退学。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) 奨学金の提案や、分割払いの推進を行う。 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		商業実務専門課程	ビジネス科（国際ビジネスマネジメントコース）	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700 単位時間/単位	1037 単位時間/単位	690 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1727 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
100人	218人	218人	10人	3人	13人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>ビジネスシーンにおける様々な資源や資産、リスクなどを管理し、経営上の効果を最適化する手法を学び、国際的なコミュニケーション力を身につける。</p> <p>具体的には、マーケティング、接客、ビジネスマナー、簿記、パソコンリテラシなどの学習により、幅広い業種におけるビジネススタッフを目指す。</p> <p>併せて、日本語能力習得のため、JLPT 日本語能力試験の N1 合格を目指す。また、検定合格だけに留まらず、アクティブラーニングを取り入れ、より実践的な日本語能力を身につけるための指導を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 進級 修得（合格）科目の時間数合計が800時間以上である。 2. 仮進級 修得（合格）科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。 3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。 4. (1年制学科) 修得（合格）科目の時間数合計が31単位、且つ850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。 5. (2年制学科) 修得（合格）科目の時間数合計が2年間で62単位、且つ1700時間以上である。 <p>※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。</p>

<p>※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。</p> <p>6. (4年生学科) 修得(合格)科目の時間数合計が4年間で124単位、且つ3400時間以上である。</p> <p>※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>クラス担任制をとっており、担任を中心に学生の生活指導、学習指導、進路指導を行っている。また、学生の7割以上がベトナムからの留学生であることから、ベトナム人スタッフを配置し、学生からの相談にあたっている。近年スリランカ、インド、ネパールの学生割合が増えてきている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
20人 (100%)	0人 (0%)	20人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 就職しないものは帰国、もしくは進学を選択した。			
(就職指導内容) 現状進路指導部で就職先の新規開発を行う、また和歌山県労働政策課やJETROと連携し、県内への就職あっせんに努めており、労働政策課は月に2回、JETROは年に2回企業セミナーの開催を行っている。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 2021年度新設コースのため、該当データなし。			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
R6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
131人	5人	3.8%
(中途退学の主な理由) 経費の関係で進級、卒業を諦めたため退学。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学科長、担任、ベトナム人スタッフにより指導を行い、相談体制を取っている。欠席が多い学生には、担任やスタッフから電話やSNSを通じて連絡し、改善が見られない場合は担任、学科長から文書による警告を行うなど、組織的に対応している。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

IT	100000 円	550000 円	360000 円	1 年生
ビジネス	100000 円	550000 円	300000 円	1 年生
IT	円	600000 円	360000 円	2 年目以降
IT (CG コース)	円	600000 円	360000 円	2 年目以降
ビジネス	円	600000 円	300000 円	2 年生
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HP にて公開 (https://www.myros.ac.jp/about/info/)		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 「学校関係者評価」の大きな目的は、評価という共同作業を行うことで教職員間、また保護者や地域住民等がお互いに理解を深めることである。学校教育目標に向かうベクトルを合わせることで、双方の協力を目的とする。毎年3月と9月の年2回実施するものとし、委員等の欠席が3分の1以上となった場合は、開催日を起点として前後2週間まで変更するなどを許容し、随時委員会への出席を求めるなど、弾力的な体制をとっている。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
(株)スマート・インサイト	1 年	企業等委員
(株)和歌山印刷所	1 年	企業等委員
和歌山情報サービス産業協会	1 年	企業等委員
和歌山大学システム工学部	1 年	学術委員
和歌山大学システム工学部	1 年	学術委員
(株)ジーアイソフト	1 年	企業等委員
(株)システムキューブ	1 年	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HP にて公開 (https://www.myros.ac.jp/about/info/)		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
HPにて公開 (<https://www.myros.ac.jp/about/info/>)

学科コース一覧

学科	コース名
IT科 (4年制)	ICTプロフェッショナル
IT科	システムエンジニア
	ITエキスパート
	コンピュータグラフィックス
	国際ITビジネス
IT基礎科	ITビジネス
ビジネス科	国際ビジネスマネジメント
	公務員専攻
	公務員マスター

学校法人三木学園 和歌山コンピュータビジネス専門学校 実務家教員（時間数）令和7年度

学科	コース	講義時間	単位	実習時間	単位	合計時間	合計単位	実務家教員掃除授業時間
IT科	システムエンジニアコース	210	14	60	2	270	16	765時間
		285	19	210	7	495	26	
	ITエキスパートコース	210	14	0	0	210	14	675時間
		375	25	90	3	465	28	
	コンピュータグラフィックスコース	165	11	60	2	225	13	405時間
135		9	60	2	195	11		
IT科（4年制）	ICTプロフェッショナルコース	180	12	30	1	210	13	1830時間
		315	21	150	5	465	26	
		315	21	30	1	345	22	
		405	27	405	13	810	40	
IT基礎科	ITビジネスコース	210	14	30	1	240	15	240時間
IT科	国際ITビジネスコース	105	7	210	7	315	14	
		135	9	240	8	375	17	690時間
ビジネス科	国際ビジネスマネジメントコース	315	21	180	6	495	27	
		195	13	0	0	195	13	
	公務員専攻コース	285	19	60	2	345	21	※申請無し
	公務員マスターコース	285	19	60	2	345	21	
		105	7	0	0	105	7	

設置している学科の一覧 (実務教員)

担当教員	科目	コース	履修形態	授業内時間
金島 康治	契約実務I	PS1	講義	60
金島 康治	契約実務II	PM1	講義	60
金島 康治	契約実務III	PM2	講義	60
金島 康治	簿記I	PM2	講義	15
金島 康治	簿記II	PM2	講義	15
金島 康治	SP1 I	PS1	講義	15
金島 康治	SP1 II	PM1	講義	15
金島 康治	SP1 III	PM2	講義	15
金島 康治	契約情報学I	PS1	講義	30
金島 康治	契約情報学II	PM1	講義	30
小林 孝実	情報基礎A	PS1	講義	60
小林 孝実	情報基礎B	PM1	講義	60
宮本 朝	情報基礎C	PM1	講義	30
小林 孝実	資格試験対策	PS1	講義	90
小林 孝実	資格試験対策	PM1	講義	90
伊藤 幸	MOS I	PS1	実習	60
伊藤 幸	MOS II	PM1	実習	60
野澤 真二	プログラミングI(JavaScript)	IBM1	講義	60
野澤 真二	プログラミングII(JavaScript)	IBM1	講義	60
野澤 真二	プログラミングIII(JavaScript)	IBM1	講義	60
西村 謙	CAD実習I	IB1	実習	60
西村 謙	CAD実習II	IB2	実習	60
西村 謙	ITリテラシー	IB2	実習	60
西村 謙	PCリテラシー	IBM1	実習	60
白谷 隆幸	ビジネス英語I(Oral)	IB1	実習	60
野澤 真二	ビジネス実務I	IBM1	実習	60
野澤 真二	ビジネス実務II	IBM1	実習	60
野澤 真二	IT実務実習	IB1	実習	30
橋本 幸治	プレゼンテーション実習	IB1	実習	30
野澤 真二	プレゼンテーション実習	IBM1	実習	60
橋本 幸治	行商実習	IB2	講義	60
橋本 幸治	行商実習	IB1	講義	60
橋本 幸治	ビジネス実務I	IBM1	講義	60
野澤 真二	IT実習	IB2	実習	60
金島 康治	マーケティングI	IBM1	講義	60
金島 康治	マーケティングII	IBM2	講義	60
金島 康治	簿記I	IBM2	講義	60
橋本 幸治	プログラミングI(Java/CS)	IB1	実習	60
橋本 幸治	プログラミング実習I(JavaScript)	IB2	実習	60
宮本 朝	ゲーム実習	IB2	実習	60
西村 謙	キャリアサポート実践講座	IB1	講義	15
西村 謙	キャリアサポート実践講座	IBM1	講義	15
西村 謙	キャリアサポート実践講座	IB2	講義	15
西村 謙	キャリアサポート実践講座	IBM2	講義	15
橋本 幸治	ゲームプログラミングI	SE2	実習	60
橋本 幸治	ゲームプログラミングII	SE2	実習	60
橋本 幸治	ゲームプログラミングIII	ICTP2	実習	60
橋本 幸治	PythonI	SE1	実習	30
橋本 幸治	C#基礎	SE1	実習	30
橋本 幸治	C#基礎	ICTP1	実習	30
橋本 幸治	C#基礎	IB1	実習	30
橋本 幸治	C#応用	SE2	実習	30
橋本 幸治	C#応用	ICTP2	実習	30
橋本 幸治	C#応用	ICTP2	実習	30
橋本 幸治	モバイルアプリケーション開発	ICTP2	実習	30
小林 孝実	情報基礎A	TE1	講義	30
小林 孝実	情報基礎B	SE1	講義	30
小林 孝実	情報基礎C	CG1	講義	30
小林 孝実	情報基礎D	TE1	講義	30
小林 孝実	情報基礎E	ICTP1	講義	30
小林 孝実	情報基礎F	SE2	講義	30
小林 孝実	資格試験対策II	TE2	講義	180
小林 孝実	資格試験対策III	ICTP2	講義	180
小林 孝実	資格試験対策IV	ICTP3	講義	180
小林 孝実	資格試験対策V	ICTP4	講義	180
小林 孝実	MOS I	TE2	実習	60
小林 孝実	MOS II	SE2	実習	60
小林 孝実	MOS III	CG2	実習	60
小林 孝実	MOS III	ICTP2	実習	60
小林 孝実	卒業制作I	ICTP4	実習	210
小林 孝実	ゼミ I	TE1	講義	30
小林 孝実	ゼミ II	TE2	講義	30
小林 孝実	ゼミ III	ICTP1	講義	30
小林 孝実	ゼミ IV	ICTP2	講義	30
小林 孝実	ゼミ V	ICTP3	講義	60
小林 孝実	卒業制作	SE2	実習	120
小林 孝実	卒業制作	TE2	実習	120
小林 孝実	作品制作I	ICTP3	実習	90
伊藤 幸	MOS I	SE1	実習	60
伊藤 幸	MOS I	TE1	実習	60
伊藤 幸	MOS I	IB1	実習	60
伊藤 幸	MOS I	CG1	実習	60
伊藤 幸	MOS I	ICTP1	実習	60
伊藤 幸	Java	SE2	実習	60
伊藤 幸	Java	ICTP3	実習	60
伊藤 幸	C#基礎	TE2	実習	30
伊藤 幸	C#基礎	ICTP2	実習	30
伊藤 幸	C#入門	SE1	実習	30
伊藤 幸	C#入門	TE1	実習	30
伊藤 幸	C#入門	CG1	実習	30
伊藤 幸	C#入門	ICTP1	実習	30
伊藤 幸	C#入門	IB1	実習	30
伊藤 幸	PythonII	SE2	実習	30
野澤 真二	IT実習	CG2	実習	30
野澤 真二	ITP実習I	CG1	実習	30
橋本 幸治	キャリアデザインI	IB1	講義	15
橋本 幸治	キャリアデザインII	TE1	講義	15
橋本 幸治	キャリアデザインIII	CG1	講義	15
橋本 幸治	キャリアデザインIV	SE1	講義	15
橋本 幸治	キャリアデザインV	ICTP1	講義	15
橋本 幸治	キャリアデザインVI	SE1	講義	30
橋本 幸治	キャリアデザインVII	CG1	講義	30
橋本 幸治	キャリアデザインVIII	IB1	講義	30
橋本 幸治	キャリアデザインIX	ICTP3	講義	30
橋本 幸治	キャリアデザインX	SE2	講義	30
橋本 幸治	キャリアデザインXI	TE2	講義	60
橋本 幸治	キャリアデザインXII	CG2	講義	60
橋本 幸治	キャリアデザインXIII	ICTP4	講義	60
橋本 幸治	キャリアデザインXIV	TE2	講義	60
橋本 幸治	キャリアデザインXV	CG2	講義	60
橋本 幸治	キャリアデザインXVI	ICTP4	講義	90
橋本 幸治	キャリアデザインXVII	SE2	講義	60
野澤 真二	Webプログラミング入門	TE1	実習	30
野澤 真二	Webプログラミング入門	SE1	実習	30
野澤 真二	Webプログラミング入門	CG1	実習	30
野澤 真二	Webプログラミング入門	IB1	実習	30
野澤 真二	WebプログラミングI	TE1	実習	60
野澤 真二	WebプログラミングI	SE1	実習	60
野澤 真二	WebプログラミングI	CG1	実習	60
野澤 真二	WebプログラミングI	ICTP1	実習	60
野澤 真二	WebプログラミングI	IB1	実習	60
野澤 真二	WebプログラミングII	SE2	実習	30
野澤 真二	WebプログラミングII	CG2	実習	30
野澤 真二	WebプログラミングII	TE2	実習	30
野澤 真二	WebプログラミングII	ICTP2	実習	30
野澤 真二	WebプログラミングII	IB2	実習	30
野澤 真二	WebプログラミングII	CG2	講義	15
野澤 真二	グラフィックデザイン実習II	CG2	実習	30
野澤 真二	グラフィックデザイン実習III	CG2	実習	30
野澤 真二	CGゼミI	CG2	講義	45
野澤 真二	CGゼミII	CG1	講義	15
野澤 真二	グラフィックデザイン実習I	CG1	実習	60
野澤 真二	グラフィック実習I	SE1	実習	30
野澤 真二	グラフィック実習II	IB1	実習	30
野澤 真二	グラフィック実習III	ICTP1	実習	30
野澤 真二	グラフィック実習IV	CG1	実習	30
西村 謙	CAD I	ICTP1	実習	30
西村 謙	CAD II	TE1	実習	30
西村 謙	CAD III	TE2	実習	60
西村 謙	CAD III	ICTP4	実習	60
北条 正樹	建築上級実習	SE2	実習	30
北条 正樹	エンゲージメントシステムI	ICTP3	実習	30
宮本 朝	情報基礎E	TE1	講義	60
宮本 朝	情報基礎F	SE1	講義	60
宮本 朝	情報基礎G	IB1	講義	60
宮本 朝	情報基礎H	ICTP1	講義	60
宮本 朝	情報基礎I	CG1	講義	60
宮本 朝	データベース	SE2	実習	30
宮本 朝	データベース	ICTP2	実習	30
宮本 朝	サーバ実習I	SE1	実習	30
宮本 朝	サーバ実習II	IB1	実習	30
宮本 朝	サーバ実習III	ICTP3	実習	30
宮本 朝	サーバ実習IV	SE2	実習	30
宮本 朝	基本情報技術	TE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	SE1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	IB1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	ICTP1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術	CG1	講義	30
宮本 朝	基本情報技術</			

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校コード	H130310000045	学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	三木 繁清		

I. ①直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	349,583,667円	278,670,686円	70,912,981円
申請2年度前の決算	328,620,785円	249,666,101円	78,954,684円
申請3年度前の決算	347,098,824円	227,139,150円	119,959,674円

I. ②直前の決算の貸借対照表における「運用資産-外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	41,634,554円	19,674,960円	21,959,594円

II. 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	527人	488人	92%
前年度	527人	411人	77%
前々年度	352人	356人	101%

大学・短期大学・高等専門学校で、II. 申請校の直近3年度の全ての収容定員充足率が8割未満の場合
申請前年度に当該学校を卒業した者について、今年度(申請年度)5月1日時点の状況について

(A)又は(B)のいずれかを記載

・申請校の直近の進学・就職率の状況(A)学校基本統計を利用する場合

	卒業者数(G)	進学者数+就職者数(H)	進学・就職率(H)/(G)
申請前年度の状況	163人	147人	90%

・申請校の直近の進学・就職率の状況(B)学校基本統計を利用しない場合

	進学希望者+就職希望者(I)	進学者数+就職者数(J)	進学・就職率(J)/(I)
申請前年度の状況			#DIV/0!

(I. ②の補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
投資有価証券	出資金	0円
現金及び預金	普通預金、当座預金、現金	106,480,321円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
長期借入金	銀行借入	0円
未払金	社会保険料他	3,564,162円
預り金	高等教育無償化交付金他	1,136,633円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

1 財産目録総括表

事項		金額	備考
資産総額		260,957,190	
内 訳	基本財産	124,766,250	
	運用財産	136,190,940	
	収益事業用財産		
負債総額		182,994,047	
正味財産		77,963,143	

2 資産

(1) 基本財産

ア 校(園)地

所在地	面積	評価額	備考※①
合計			

イ 校(園)舎

所在地	構造	面積	評価額	備考
和歌山市黒田41-1	鉄筋コンクリート造陸屋根 5階建	1,013.65㎡	59,400,000	
和歌山市太田4-5-5	鉄骨造陸屋根4階建て	1,881.71㎡	27,772,282	
合計		2,895.36㎡	87,172,282	

ウ 校(園)具・教具・図書・備品

区分	名称	点数及び冊数	評価額	備考
校(園)具	椅子、机 ほか	857点	990,234	
教具	パソコン、プロジェクターほか	566点	21,243,458	
図書	参考図書 ほか	1,537点	3,682,532	
備品	コピー機 他	1,269点	4,842,893	
合計		4,230点	30,759,117	

(2) 運用財産

ア 預金

預金先	預金種別	利率	金額	備考
紀陽銀行太田支店	当座		1,532,811	
紀陽銀行太田支店	普通	0.200%	102,992,415	
紀陽銀行大阪支店	普通	0.200%	1,719,255	
合計			106,244,481	

イ 現金

235,840

3 負債

205,591,095

(1) 借入金

借入先	借入金種別	利率	金額	備考
合計				

3 借用財産

(1) 土地

所在地	面積	借用先	借用条件	備考
和歌山市黒田41-1,41-3	516.80㎡	三木 繁清	月額賃料28万円	
合計				

(2) 建物

所在地	構造	面積	借用先	借用先条件	備考
和歌山市太田4-5-5	鉄骨造陸屋根4階建て	1,881.71㎡	(有)紀和測量	月額賃料187万円	
合計		1,881.71㎡			

<記載上の注意>

1) A4版上質紙、横書き、左とじ

※ ①設置者変更認可申請、学校法人解散認可(認定)申請の場合は、売買契約書を添付すること。

ただし、同時に提出する認可申請書において添付済みのものは省略可

校舎、工具等の場合も同様

※ ②金銭以外のもの

貸借対照表

令和7年3月31日

学校法人 三木学園

資産の部	
科目	金額
固定資産	153,047,844
有形固定資産	124,766,250
その他の固定資産	28,281,594
流動資産	107,909,346
資産の部 合計	260,957,190
負債の部	
科目	金額
固定負債	0
流動負債	182,994,047
負債の部 合計	182,994,047
純資産の部	
科目	金額
基本金、繰越収支差額	77,963,143
純資産の部 合計	77,963,143
負債及び純資産の部 合計	260,957,190

損益計算書
令和7年3月31日

学校法人 三木学園

収入の部	
科目	金額
純売上高・売上利益	349,583,667
収入の部 合計	349,583,667
負債の部	
科目	金額
販売費及び一般管理費	278,670,686
負債の部 合計	278,670,686
営業利益	
科目	金額
合計	70,912,981
営業外収益	
科目	金額
合計	7,386,126
営業外費用	
科目	金額
合計	82,155
経常利益	
科目	金額
合計	78,216,952